

「天岩戸・高千穂の旅」

2011年2月10日(木)～12日(土)

参加者：井戸理恵子、玉置扶美代、渡辺由紀子、作田英二、嵩茂、鈴木富雄

玉ちゃん(玉置さんの愛称)のルーツである「玉置神社を訪れてみたい」の一言でスタートした探訪の旅は、第1回：「天川、伊勢神宮参拝の旅」、第2回：「平城京跡訪問の旅」、第3回：「高野山宿坊体験の旅」、今回(第4回)は「天岩戸・高千穂の旅」である。いずれの旅も井戸隊長の献身的且つ周回な旅行プランにより、毎回、感動と驚愕と喜びを体験する魅力的な旅となっている。それでは、今回の「天岩戸・高千穂の旅」を簡単にレポートしよう。

2月10日(木) 天候：曇り後小雨

大分空港行きの羽田空港発11時55分に搭乗するために、いつものメンバーがJAL出発ロビーに元気な姿で集合した。搭乗手続きで嵩ちゃんが捕まった。本人の体型がメタボだからではなく、旅行カバンが機内持ち込み基準をオーバーしているとのこと。別のところを誘導されてしまった。この嵩ちゃんの行動は、波乱万丈のこの後の旅先を予感させるものであった。

飛行機は順調に大分空港に到着した。外は寒いが東京と余り変わらない。早速、レンタカーを借りて日本の八幡

神社を代表するという由緒ある宇佐神社に向かう。宇佐神社に到着するや否や社殿にお参りするのではなく、誰かからもなく、まず体を暖めてから参拝しようということで、お茶屋に直行し甘酒を皆で頂戴する。参拝後、本日の寄宿先である海に面した別府ホテル「清風」に向かう。二次会も終えて、男三人で深夜の「露天風呂」に行くと、中からどこかの親父が歌う演歌が聞こえてくる。品格を重んじる我ら三人衆は、絶対に風呂に入ったら歌わないと決心して湯船に入る。長崎からきた親父が演歌と一緒に歌おうと盛んに声をかけてくる。しばし躊躇していた作ちゃんとトミちゃんだったが、遂に呼応して、真つ暗闇の海空に向い、直立不動で演歌を歌い続けた。裸の付き合いととは正にこのことかと実感したが、名前も連絡先も聞かず、一期一会の思い出と化してしまった。(午前零時就寝。)

【2日目】

いよいよ、本命の天の岩戸・高千穂の探訪である。朝、9時にホテルを出発する。目的地への最短距離は、103 km

で12時半の到着時間を示す。県道8号線に入って、順調に到着時間が短縮され目標到着時間の12時が射程圏に入りだした頃に、雪が降ってきて山の細い坂道でスリップし立ち往生した。チェーンなしでは運転ができなくなった。すかさず、颯爽と登場したのが嵩ちゃん。チェーン装着に向けて機敏な行動を示す。(装着まで45分要した。)滅多に褒めない由紀ちゃんも、此の時は嵩ちゃんに感謝、感謝を連発する。

何とか無事到着し、「高千穂がまだせ(がんばろうの意味)市場」内のレストランで昼食をとっている時に、井戸ちゃんの友人(養父信夫氏、他八名)と出会う。いつものこととはいえ、どこを訪れても友人・知人がいる。人脈が多く我々一同はいつも訪問先でお世話になっている。ここでも感謝、感謝。合流した仲間の皆さんと一緒に「高千穂神社」と「秋元神社」を参拝した。

高千穂神社は天孫降臨の地の神社として、また夫婦岩等のパワースポットとしても人気があり多くの参拝客が見られた。一方、秋元神社は高千穂の地にあるとはいえ、更に山奥にある神社で訪問する人も少ないらしい。高所になり、寒さが一段と身にしみてきた。身も心も清める思いでお神酒をいただき、井戸教祖様の長めの祝詞を厳粛な

気持ちで拝聴した。参拝が終わって、いざ車に乗ろうとした時にまたもや事件が発生。嵩ちゃんがアイスバーンになっていた坂道で転倒したのである。もんぞり返って転んだ嵩ちゃんの姿を見た玉ちゃん、由紀ちゃん、井戸ちゃんが大笑いした。周囲では「お神酒を何杯もお代わりして飲んだ罰が当たったのよ」とか「これで頭が良くなるんじゃないの」とか、冗談とも事実とも取れるような会話が飛び交った。嵩ちゃん曰く、「お前達は薄情だ。それに引き換え、井戸ちゃんの知人(女性三人)は、怪我がないかと心配してくれて優しいよ。」と捲し立てる。帰りの車中はこのスッテンコロリン事件で多めに盛り上がった。災い転じて福となせるのか。今迄のところ、どうも空回りが続く嵩ちゃんである。

続いて、荒立神社に向かう。この荒立神社は芸能の神様と謂れ、芸能人もよく現れるとのことである。ここで、京都からわざわざ駆けつけてくれた武田好史氏に会う。同氏は第2回の平城京の旅の帰りに立ち寄り寄らせていただいた京都在住の文化人で、やはり井戸ちゃんのシンパである。京都では深夜までお邪魔し、我々仲間が大変お世話になった人である。